

# コモンズ30+しずぎんファンド

追加型投信 / 内外 / 株式



## 基準価額の推移

2014年12月29日 ~ 2023年10月31日



※「分配金込基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています。※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により減減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、年率1.265%(消費税込)です。



## 運用実績

2014年12月29日 ~ 2023年10月31日

### 基準価額

19,412 円

(前月末比)

△674 円 (△3.36%)

### 純資産総額

16.6 億円

(前月末比)

△0.4億円 (△2.06%)

### 騰落率(分配金込)

| 期間  | 騰落率    |
|-----|--------|
| 1ヵ月 | △3.36% |
| 3ヵ月 | △7.01% |
| 6ヵ月 | 6.37%  |
| 1年  | 18.32% |
| 3年  | 47.40% |
| 5年  | 54.16% |
| 10年 | -      |
| 設定来 | 94.12% |

### 分配金(1万口当たり、税引前)

| 決算期      | 分配金 |
|----------|-----|
| 2018年12月 | 0円  |
| 2019年12月 | 0円  |
| 2020年12月 | 0円  |
| 2021年12月 | 0円  |
| 2022年12月 | 0円  |
| 設定来合計    | 0円  |

※「基準価額」およびその「前月末比」は分配落後です。※「騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。



## ポートフォリオの構成比

| 種別            | 比率   |
|---------------|------|
| コモンズ30ファンドマザー | 90.7 |
| 静岡銀行株式        | 8.8  |
| 現金等・その他       | 0.5  |
| 構成銘柄数         | 33社  |



## ポートフォリオの状況

### 業種別比率

|        |       |
|--------|-------|
| 機械     | 21.4% |
| 電気機器   | 14.1% |
| 化学     | 13.5% |
| 卸売業    | 8.3%  |
| サービス業  | 7.8%  |
| 輸送用機器  | 6.9%  |
| 食料品    | 4.4%  |
| 情報・通信業 | 3.8%  |
| 小売業    | 3.1%  |
| 金属製品   | 3.1%  |
| その他製品  | 3.0%  |
| 医薬品    | 2.9%  |
| 建設業    | 2.5%  |
| 陸運業    | 1.7%  |
| その他    | 3.4%  |

### 未来コンセプト別比率

|           |       |
|-----------|-------|
| ウェルネス     | 15.7% |
| 精密テクノロジー  | 15.0% |
| 生活ソリューション | 13.9% |
| 資源・エネルギー  | 10.8% |
| 快適空間      | 9.4%  |
| 新素材       | 8.7%  |
| 未来移動体     | 6.9%  |
| 地球開発      | 6.8%  |
| ライフサイクル   | 5.6%  |
| 社会インフラ    | 3.8%  |
| その他       | 3.4%  |

## 組入上位10銘柄

| 銘柄         | 未来コンセプト   | 銘柄概要                                      | 組入比率 |
|------------|-----------|-------------------------------------------|------|
| 1 ディスコ     | 精密テクノロジー  | kiru, kezuru, migaku、世界を代表する精密加工装置メーカー    | 4.7% |
| 2 三菱商事     | 資源・エネルギー  | 変化に強い組織力で、進化し続ける                          | 4.4% |
| 3 味の素      | ウェルネス     | 「食と健康の課題解決企業」としての認知を広め、コーポレートブランド価値向上を目指す | 4.4% |
| 4 信越化学工業   | 新素材       | 戦略的なポジショニングに優れ、素材メーカー随一の収益性               | 4.1% |
| 5 丸紅       | 資源・エネルギー  | 規律ある経営で収益を積み重ね、いつか総合商社ナンバーズリーに            | 3.9% |
| 6 KADOKAWA | 生活ソリューション | IP創出力とIT技術力に支えられ、変化を恐れず挑戦し続ける             | 3.8% |
| 7 日立製作所    | 社会インフラ    | インフラとITをつないで、社会課題を解決する                    | 3.8% |
| 8 ユニ・チャーム  | ライフサイクル   | 世界企業と切磋琢磨し、空白地帯で成長                        | 3.8% |
| 9 東京エレクトロン | 精密テクノロジー  | 創業時のエネルギーが脈々と続く「革新」を続けるグローバル企業            | 3.7% |
| 10 デンソー    | 未来移動体     | モビリティ社会で価値を創造し続ける                         | 3.7% |

※「業種別構成比」「未来コンセプト別比率」「組入上位10銘柄」に関しては、マザーファンドについての記載になります。※各比率はマザーファンドの純資産総額を100%として計算しております。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。※その他とは現金等を指します。

◎「未来コンセプト」とは、当ファンドが行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。

「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」



## 運用状況

### ◎運用レビュー

10月のファンドの月間リターンは▲3.36%の下落となりました。

### ◎運用責任者メッセージ

10月の内外株式市場は、米国10年国債利回りの5%台乗せ（2007年7月以来）や中東情勢の緊迫化などから世界的に大きく下落する展開でした。米国では金利上昇局面で、引き続きテクノロジー株の下落が顕著でした。国内株式市場も、こうした世界的な株価の下落に連動して続落となりました。月末には、日銀がYCC（イールドカーブコントロール＝長短金利操作）の再修正を行ったことから、日本の長期金利も上昇し株価を抑えました。

当マザーファンドは、月間で▲3.96%の下落、投資先32銘柄中7銘柄が値上がり、25銘柄が値下がりとなりました。同期間のTOPIX（東証株価指数；配当込）は▲2.99%、日経平均株価は▲3.14%の下落となりました。

当マザーファンドの株式の組入比率は、96.6%と前月比+1.6%の上昇となりました。10月後半の下落局面では積極的な買い増しを行いました。個別銘柄の月間騰落率ではマキタ+4.58%、信越化学+2.88%、ヤマトHD+2.83%が上位3銘柄となりパフォーマンスをけん引しました。下位3銘柄は、エムスリー▲14.80%、コマツ▲14.35%、日揮HD▲11.42%となりました。当月、上場来高値を更新した銘柄はディスコの1銘柄、年初来高値を更新した銘柄も同社だけでした。なお、9月から新たに1銘柄の組み入れが始まり保有銘柄数は32銘柄となっています。当該銘柄の組み入れが一定の比率になりましたら銘柄の開示を行う予定です。順調に組み入れは進んでいますので、もうしばらくお待ちください。

当面の国内株式市場は、米国の長期金利の動向へ関心が高まっています。すでにFRB（連邦準備制度理事会）では7月を最後に次のFOMCが開かれる12月中旬まで約5ヵ月間の利上げ見送り状態です。国内株式市場も、こうした状況を受け年末年始に向けて再び騰勢を強めていくと想定しています。市場の動向に関わらず、引き続き丁寧な運用を継続していきます。どうぞ、ご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

### 投資委員会メンバー

○伊井哲朗、上野武昭、末山仁、原嶋亮介、古川輝之/○は最高運用責任者

組入比率と組入銘柄については、マザーファンドについての記載となります。



## 新規組入投資先

なし



## 今月のピック！

### ■ (4063) 信越化学工業

信越化学工業が発表した2024年3月期第2四半期決算では、売上高が前期比15.1%減、営業利益が同28.8%減となりました。北米を中心に展開する塩化ビニル樹脂事業においては市況下落の影響を受け、半導体シリコン事業においては顧客の在庫調整によって需要が減退するという厳しい外部環境下ではありましたが、**当社の底力を発揮してダメージを最小限に抑えた決算と言えるのではないかと**思っています。

半導体シリコンの需要に関してはもうしばらく調整が続く可能性もありますが、中長期的な需要増に対する確度は変わっておらず、先々の需要増を見越した設備投資については計画通りに進んでいます。また、それ以外の事業においても、半導体露光工程で使用されるフォトマスクブランクスにおいて最先端のEUV露光向けの量産を開始するといった明るいニュースもありますので、外部環境が好転した際の業績回復に期待できると考えています。

シニア・アナリスト/ESGリーダー 原嶋 亮介

### ■ (8058) 三菱商事

三菱商事の24年3月期上期の当期利益は4,661億円、前年同期比35%減となりました。資源価格の沈静化やキャピタルゲインの反動で、大幅減益となりましたが、上期の当期利益としては前年同期に次ぐ過去2番目の水準でした。通期の当期利益計画については、期初の9,200億円から、9,500億円（前期比20%減）に上方修正しました。天然ガス、自動車・モビリティ、総合素材、コンシューマー産業などのセグメントが想定以上の収益で推移していることが背景にあります。

なお、同社は中長期的な成長に向けて、事業環境の変化を注視し、**戦略的に経営資源の循環を促進し、資本効率の向上を図っています**。高収益・高成長の事業については、強化・拡大を目指しています。一方、収益性（ROIC）が業界に比べて劣後する事業、および低成長の事業は、リスト化して入れ替えあるいは継続保有の是非を判断し、赤字削減や継続保有先の収益改善に努めています。

シニア・アナリスト 上野 武昭

### ■ (2413) エムスリー

エムスリーは、10月27日に2024年3月期第2四半期決算を発表しました。第2四半期の連結業績は、主力の製薬マーケティング支援事業が第1四半期と同様に着実に進捗したことなどから前年同期比で増収となりましたが、昨年度までの新型コロナウイルス関連の業績嵩上げ分の反動減などの影響により減益となりました。新型コロナウイルス関連の業績への入り繰りを除いた売上成長は前年同期比で+12%なので、一過性の要因を除けば順調に業績が拡大していることが確認出来ます。

エムスリーはこれまでM&Aを通じて事業領域や地域を拡大してきましたが、**今後もM&Aを重要な経営戦略と位置付けていて、海外企業も含めて引き続き積極的に投資していくスタンス**です。また、これまでは病気などを発症した患者や、それらを治療する医師などが主たるターゲット市場でしたが、最近では、病気などを発症する前の健常人を対象とする市場についても、健康データ管理、予防、早期診断促進、病に関するリテラシー向上など今後拡大する重点領域として力を入れ始めています。

エムスリーの株価は、金利上昇懸念による高成長銘柄の買い控えなどにより低迷が続いていますが、企業業績の着実な成長が見直されるタイミングでは、再び上昇基調に回帰していくものと期待しています。

シニア・アナリスト 末山 仁





## こどもトラストセミナーで【セブン&アイ】を体験しよう！2023

2023年8月19日、コモンズ30ファンド投資先企業セブン&アイHDの伊藤研修センターにて、こどもトラストセミナーを開催いたしました！

まずは、幼児～低学年のお子さんと、高学年のお子さんに分かれ、制服に身を包みます。低学年以下のお子さんはヨーカドーの制服、高学年のお子さんはセブン&イレブンの制服です。みんな、一気に大人気分。

さあ、いよいよ講義の開始です。

伊藤研修センターの日塔先生が様々なクイズなどを通して、会社やセブン&イレブンについてご説明くださいました。親子で一緒に考えます。

なぜ、セブン-イレブンという名前になったの？ヨーカドーで売られているたまごのひみつは？？さらには、セブン-イレブンで回収されるペットボトルの数や、セブン&アイHDが取り組んでいる環境への配慮の取組や地球環境に配慮した商品開発について、など、様々な角度から、**セブン&アイHDの取組について学ぶことができました。**

さあ、そしてここからは、2つのグループに分けて、実際のお仕事を体験です！

低学年のグループは、接客&レジ打ち体験。高学年のグループは、セブン-イレブンでの陳列&レジ打ち体験です。みんなホンモノの商品や、実際のレジを前に大興奮。

さあ、続いては、**お寿司づくり&試食会**です。

専用のブラシを使い手をしっかり洗うところから取り組みます。徹底した衛生管理の元、お惣菜づくりが行われていることを体感します。

お寿司づくりでは、ふわっとしたシャリが自動で作られる機械の前に、子どもたちも目を丸くして見学。握りのコツを教えてもらったあと、一人ひとり、ネタを乗せていきます。

すっかりおなかがすきました。ここから試食タイムです。自分で握ったお寿司は格別。笑顔があふれる楽しい試食会になりました。



皆で集合写真

写真で当日の様子を紹介しています。ぜひご覧ください。

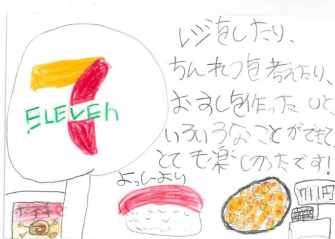
[https://www.common30.jp/contents/event\\_report/4325/](https://www.common30.jp/contents/event_report/4325/)

お腹も満たされたところで、今日のメインイベント。

ここからは親と子に分かれ、こども投資家である子どもたちに、コモンズがなぜ、セブン&アイに投資をしているのか、そして、そのセブン&アイをこれからも応援していきたいか、の「**こども投資会議**」を開催です。

アナリストの上野から、体験したお寿司づくりや、衛生管理、陳列の工夫などを例に挙げながら、セブン&アイHDのすばらしさ、特に商品開発におけるこだわりが企業の競争力につながっていること、その企業をぜひみんなにも応援していこう、ということ話をしました。そして最後に、**子どもたちから、セブン&アイHDの社長さんと伊藤研修センターの皆さんにお手紙をしたためました。**

大満足の体験はここまで。最後にお土産までいただいて、こどもトラストセミナーは終了しました。



子どもからのお手紙

保護者の方からの感想を一部紹介します。

- ・身近な7&i HDGSを体験することで、**娘が会社、株式、投資を学ぶきっかけになると**感じました。
- ・人見知りで恥ずかしそうでしたが、レジ打ち体験に寿司作りが楽しかったようで、「**大人になる！**」と**宣言するほどいい経験**になったようです。
- ・娘は純粋に遊びに来た感覚で伺っていますが、**社会に触れ、会社を知ること**で**将来の夢に繋がってくるのではない**かと思います。受け入れいただく企業様にはご負担をおかけすることもあると思いますが、大人、子ども双方により勉強会の場をご提供いただけましたら幸いです。

この場を借りて、貴重な体験の機会を作っていただいたセブン&アイHD、伊藤研修センターの皆さまに心よりお礼申し上げます。

取締役マーケティング部長 福本 美帆



## 未来がはじまる場所になる。

### 第4回目：静岡銀行 ベンチャービジネスサポート部 秋山峻亮さん

当ファンドの投資先企業である、しずおかフィナンシャルグループ（以下：しずおかFG）における取組みを紹介するコーナーです。

コモンズ30+しずぎんファンドは、環境の変化やグローバルな競争が激しい時代を乗り越え、豊かな生活と地域社会への貢献を目指す未来志向な地域金融の実現を、地域の金融機関への投資を通じて目指すファンドです。

「未来がはじまる場所になる。」をスローガンに掲げる、しずおかFGが地域の明るい未来に向けてどのようなマテリアリティ（取り組むべき重要課題）に取組み、社会価値の創造と企業価値の向上の両立の実現に向けた挑戦を続けているのか、しずおかFGの従業員の皆さんとの対話を通じてご紹介していきます。

第4回目は、【静岡銀行 ベンチャービジネスサポート部 秋山峻亮さん】です！

Profile：富士中央支店→三島支店→経営企画部ベンチャービジネスプロジェクトチーム→東京営業部ベンチャービジネスサポート部（2021年6月にプロジェクトチーム設置、2022年10月に組織改定）

秋山さんは現在、ベンチャービジネスサポート部において、スタートアップ企業への融資（ベンチャーデット）やハンズオン支援、ベンチャーキャピタルへの投資などに取り組んでいる。ベンチャービジネス周辺の領域で培ったネットワーク、知見を地域に還元することで地域エコシステムの構築に繋げていく役割を担う。

森田：本日はよろしくお願いします。新たなビジネスを創出するに相応しい、とてもオープンなオフィスですね。

秋山さん：そうですね！同僚や上司とのコミュニケーションも取りやすいので、業務もとても捗ります。

森田：現在の業務において、大切にされている想いや考えはありますか？

秋山さん：目先の事象や固定観念に囚われず、物事の背景を理解し、俯瞰して考えることを大切にしています。入社時から一貫して法人関連業務に従事しており、これまでも企業の過去の実績にのみ囚われることなく、今後の成長性についても考慮した審査を心掛けてきました。



秋山さん（Shizuoka Innovation Land@丸の内）



部内の様子（一番右が秋山さん）

森田：所属部署でのマテリアリティ（重要課題）に対する取組みと、具体的なアクションがあれば教えてください。

秋山さん：ベンチャービジネスサポート部ではベンチャー企業への融資の窓口（担当）として、スタートアップ企業に対するファイナンス提案を行っています。特に、私たちグループのマテリアリティ（重要課題）である「産業発展と金融イノベーション」や「デジタル社会の形成」に対し、ベンチャー関連ビジネスを通じて得た先進的な知見を地域に還元することが我々の役割だと考えています。ベンチャーデットやベンチャーキャピタルへの投資以外にも、地域のお客さまとのビジネスマッチング等銀行ならではの多面的な支援も行っています。スタートアップ企業が借入により資金調達をすることは、まだまだ当たり前ではありません。企業の過去の実績のみでなく成長性を評価し、資金供給を中心とした適切なサポートを行うことで、**未来を見据えた新領域の開拓や地域への先端技術の還元**に繋げていくことが目標です。

森田：秋山さんがイメージする、未来のしずおかFGの姿を教えてください。

秋山さん：あらゆる企業の駆け込み寺のような存在となることです。単なる金融支援にとどまらない、**多種多様なネットワークを活用した包括的な支援体制のある先進的な地域金融グループを目指していきたいです。**

森田：しずおかFGに関わる方々へ、メッセージをお願いします！

秋山さん：従業員一人ひとりが世の中の変化に対応しながら成長をし続けることが、地域の持続的な発展にも繋がると考えています。先進的な領域に身を置き、仕事ができることに感謝して、しずおかFG、地域の未来の種となるような取組みを積み重ねていきたいと思っています。



業務中の秋山さん

マーケティング部 森田 菜月





## ちょっといい話

### 【新NISAの準備は出来ていますか？】

最近、仕事以外でお会いする方と話していると「今まで資産運用は何もしてこなかったのですが、新NISAを始めたいと思っています。是非、ポイントを教えてください」と言われることが急増しています。私からは、

- ① 思い立った今、すぐに行動しましょう
  - ② 始めたら、必ず続けましょう
  - ③ 投資信託の積み立てで利用ください
- とお答えしています。

さて、①を考えるにあたり、これまでのNISAの現状をみてみましょう。年間40万円までの投資信託の積み立てが出来るつみたてNISAは2018年にスタートしましたが、今年6月までの4年半で836万人の方が利用しています。年代別では、30代、40代の利用者が最も多く、次に50代、20代と続きます。

また、一般のNISAの利用者の多くは新NISAで非課税枠が年間360万円に拡大するので、民間金融機関のアンケートを見ると、枠が増えた分だけ利用額を増やすという方も少なくありません。資産形成のための非課税制度です。是非、ご利用ください。

②続けられるのかと、ご心配の方もいらっしゃると思います。例えば、日本株は30年間低迷しました。日本株は選択出来ないな～との声も聞かれます。30年間、東証株価指数TOPIX（配当込み指数）を毎月5万円×30年間、積み立てると積立額の合計金額は丁度1,800万円。**この30年間の運用結果は、約3,800万円になります。**

一例ではありますが、低迷する市場でも積み立ての継続は一定の威力を発揮します。海外のインデックスもいいですが、是非、日本企業の応援も選択肢に！

③NISAは、税金が非課税というよりも**課税対象外と考える方が正確**です。課税対象外なので売却益が出ても課税されませんが、売却損が出て他の利益との相殺には使えません。投資信託の長期的な積み立て投資は、時間分散効果などにより利益が出ている状態が長くなる傾向がありますが、成長投資枠での投資信託や株式の一括投資は、上手く行かないことも少なくありません。

個人的には、**つみたて投資枠も成長投資枠も投資信託の積み立てをメインにされる**といいと思います。いずれにしても新NISAを活用し、自身や家族の夢の実現や人生の選択肢を増やしていかれることをお勧めしたいです。私たちも、運用を頑張ります。引き続き、ご期待ください。

代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗





## 販売会社一覧

| 販売会社名                                 | 登録番号                     | 加入協会              |                         |                         |                            |
|---------------------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------|
|                                       |                          | 一般社団法人<br>日本証券業協会 | 一般社団法人<br>日本投資顧問業<br>協会 | 一般社団法人<br>金融先物取引業<br>協会 | 一般社団法人<br>第二種金融商品<br>取引業協会 |
| 株式会社静岡銀行                              | 登録金融機関 東海財務局長（登金）第5号     | ○                 |                         | ○                       |                            |
| マネックス証券株式会社                           | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号 | ○                 | ○                       | ○                       | ○                          |
| 静銀ディーエム証券株式会社                         | 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第10号  | ○                 |                         |                         |                            |
| 株式会社 SBI 新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社） | 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号    | ○                 |                         | ○                       |                            |





## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

### 基準価額の変動要因となる主なリスク

|                 |                                                                                                                                                                         |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 株価変動リスク         | 当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。                                      |
| 流動性リスク          | 有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといいます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。 |
| 為替変動およびカントリーリスク | 外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。                                          |



## その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。



## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

|              |                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 購入時手数料       | 販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.3%（消費税込）が上限となっております。                                                                                                                                          |
| 換金手数料        | ありません。                                                                                                                                                                                                              |
| 運用管理費用（信託報酬） | ファンドの純資産総額に年1.265%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。                                                                                                                                      |
| 信託財産留保額      | ありません。                                                                                                                                                                                                              |
| その他の費用・手数料   | 当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額に対して年0.11%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、運用状況、保有機関等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。 |



## お申込みメモ

その他

|             |                                                                                                                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商品分類        | 追加型投信/内外/株式                                                                                                                                                  |
| 信託設定日       | 2014年12月29日                                                                                                                                                  |
| 信託期間        | 無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）                                                                                                    |
| 決算日         | 原則として毎年12月18日（休業日のときは、翌営業日を決算日とします。）                                                                                                                         |
| 分配方針等       | 毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。 |
| 購入単位        | 販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。                                                                                                                             |
| 購入価額        | 購入申込日の翌営業日の基準価額                                                                                                                                              |
| 換金単位        | 販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。                                                                                                                             |
| 換金価額        | 換金申込日の翌営業日の基準価額                                                                                                                                              |
| 換金代金の支払い開始日 | 換金申込日から起算して5営業日                                                                                                                                              |
| 申込締切時間      | 購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。午後3時を過ぎてのお申込みは、翌営業日のお申込みとして取扱います。                                                                                                    |



## ご注意事項

- ・本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ・ファンドの組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。
- ・このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ・投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。



## 関係法人

委託会社

コモンズ投信株式会社  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-5 VORT平河町Ⅱ 5階（旧 平河町Kビル）

- ・金融商品取引業者
- ・関東財務局長（金商）第2061号
- ・加入協会 一般社団法人投資信託協会

お問い合わせ先

- コールセンター（受付時間／平日 午前10時～午後4時）03-3221-8730
- ウェブサイト <https://www.common30.jp/>